２年８組　学級通信

2025 年 10 月 17 日（金）
No.110
担任　中道洋友

四分の三発表会に向けて
～ポスターを作り始めよう４～

ポスターの作り方第 4 弾です。今回は細かいルールを説明しましょう。

【意外と守られていないマナー】

①パラグラフの番号の付け方

パラグラフの番号は右のようにつけていきます。「３．実験１」という大きなまとまりの次に「3-1」という小さなまとまりがあるということです。さらに小さなまとまりに分ける場合は「3-1-2」のようにしていきます。

②箇条書きにするとき

箇条書きにするときは、「①」「②」のような番号をつけたり、「・」を文頭につけると良いでしょう。その際、右の例の①のように「①」の下に文字があるとみっともないです。②のように「②」や「・」の下は１文字あけてください。

３．実験１　一円玉を水に浮かべる実験
3-1　実験道具
・一円玉（直径 1.0cm、厚さ 1.0mm、質量 1.0g）
・200mL ビーカー（直径○ cm、深さ○ cm）
・水（蒸留水）
3-2　実験方法
①ビーカーに 200mL 水を入れて、一円玉を水に浮かべる。
② 2 枚目の一円玉を 1 枚目の上にゆっくりのせる。

【読みやすい･理解しやすい文章にする工夫】

①指示語は多用しない

ポスターの場合、文章を長くすることはありません。そのため、適切な例ではありませんが、例えば「一円玉を浮かべると、10 枚積み重ねることができたが、11 枚目で水に沈んだ。そのことから・・・・・」という文章があったとします。少し意地悪な文章の読み方をすると、「そのこと」が「水に浮かんだこと」を指すのか、「水に沈んだこと」を指すのか、はたまた「10 枚浮かべることができる」ことを指すのか、など何を指示するのかはっきりしない文章になっていないか、必ずチェックするようにしてください。「そのこと」ではなく「10 枚の一円玉を浮かべることができることから・・・・」など、指示語を使わないで書いた方が論理関係がはっきりする場合も多々あります。

②「→」は論理の関係を示すときに使う

箇条書きをする場合「→」で論理の関係を示すことがあります。「A → B」は「A だから B だ」という意味です。A と B が並列の関係にあるときに「→」でつながないようにしましょう。

③「私」や「私たち」「我々」のような一人称を主語にしない

一人称の主語を使わないでください。例外は、「はじめに」で「私たちは○○に興味を持ち○○の実験を行った」という場合です。ポスターや論文は「個人の意見や感想ではなく、客観的な事実を伝える場」だからです。一人称の主語は、よっぽど自信のあるときです。そのため、「私たちは○○ということを発見した」ではなく「○○ということが判明した」や「○○だと思われる」とします。英語だと「It・・・that ○○の構文」のように関係代名詞ですね。ちなみに語尾で自信の度合いを示します。

④基本過去形で。

前にも書きましたね。

⑤はじめて見る人にもわかるようにしよう！

一般的ではない語句を使うときは、必ず意味を示したり、定義したりします。

⑥できるだけ箇条書きで

これもわかりますね。文章で書いても、じっくり読む時間はありません。

⑥フォンとはゴシックが見やすい

これもわかりますね。また特殊なフォントを使うときは、効果的かどうかをよく考えてください。

【実験上の条件は必ず示す】

①実験の回数は？サンプルの数は？

実験の回数やサンプルの数が十分かどうかを示さなければなりません。2 回の平均だったら、もしかしたら偶然かもしれないですよね。

②有効数字には気をつけろ！

前にも学級通信に書きました。特にデジタル測定器で 3.254g と出てきても、どこまで信頼できるかを考えてください。君たちが行っている実験は、多くの場合有効数字 2 桁または 3 桁程度のはずです。

③数値には必ず単位をつける！

当たり前ですが、結構忘れることがあります。